

## 「11/12令和5年度防災訓練実施要項」を話し合う

「11/12令和5年度防災訓練実施要項」について話し合いました。三団体合同防災訓練は①安否確認訓練、②AED &心肺蘇生訓練、③炊き出し訓練に決定致しました。具体的な内容は10月8日、レディースクラブと消防団にも集まっていただき決めたいと思います。安否確認訓練の案内は町会だよりだけでは不十分なので、11月頭までに分かりやすくカラーでチラシを作成して全戸配布する予定です。

### □安否確認マニュアルの必要性

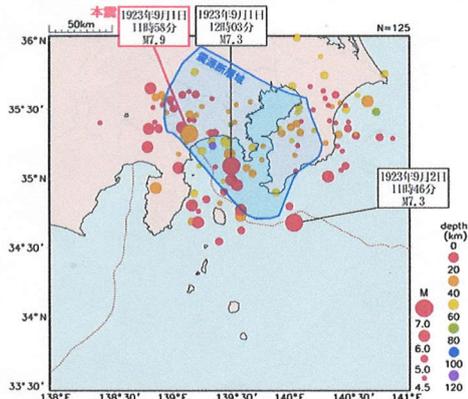
「安否確認訓練の内容は今回の訓練のためだけではなく、いつ災害が起こるか分からないので、それを想定していつでも安否確認が出来るマニュアルを作って置くべきではないか」という意見がありました。安否確認マニュアルは必要だと思いますので、もう少し内容を詰めてから町会より配布を検討する。

### □かんたん手作り防災グッズ

防災訓練に子供育成会を巻き込んで、避難所で必要な「かんたん手作り防災グッズ」を作成できないか提案がありました（新聞紙で作るスリッパ・紙で作るお椀・紙で作るコップ・ゴミ袋で作るレインコートなど）子供に関心を持ってもらうのも大事、次回の防災訓練に実施するか検討したいと思います。

### □積み土のう体験会、防災部1名参加

7月21日、立川市緑町3280番地にある警視庁多摩総合庁舎に行ってきました。普段は立ち入り禁止地区、今回初めて入ることが出来ました。写真撮影は一切禁止、広々とした敷地にヘリコプターが何機も発着する中、積み土のう作成・積み土のう工法実技訓練を体験。バケツに定量の土(目立つ石は取り除く)を土のう袋に入れ、土のうを板で平らに固め、次の土のうを載せる側を斜めに叩いて重ね合わせ、千鳥に積んでいきます。ブルーシートを敷いて土のうを包み込むと水の侵入を防ぐ効果があることが体験出来ました。その他に、防災に役立つ、ひもの結び方「もやい結び」や救命浮き輪投げも体験してきました。



## 「関東大震災から100年」 震源地は意外にも神奈川県

1923年（大正12年）9月1日11時58分、神奈川県西部の北緯35度19.8分、東経139度08.1分、深さ23キロメートルを震源とするマグニチュード7.9の地震が発生しました。この地震では、発生が昼食の時間と重なった事から、多くの火災が起きて被害が拡大しました。また、津波、土砂災害なども発生し、死者・行方不明者は10万5千人余にのぼりました。この地震によって生じた災害は「関東大震災」と呼ばれています。

## 犠牲者の多くを占めたのは火災（地震が起きたら火の始末！）

関東大震災の死者・行方不明者の9割が火災による被害です。地震の発生時刻が昼食の時間帯に重なり、かまどやしちりんなどを使っていたこともあって同時多発的に火が出て次々と延焼し、焼失面積が38平方キロメートルと大規模な火災となりました。地震の揺れで断水したことや強風が吹いていたことも被害を拡大させた要因と考えられています。特に被害が大きかったのが現在の東京・墨田区にあった「被服廠跡」と呼ばれる工場跡地です。周囲から火の手が迫り、炎や煙が竜巻のようになる「火災旋風」も発生して、避難していた人の大半のおよそ3万8000人が死亡しました。

## 地震から身を守るための10箇条

- ① グラッときたら身の安全
- ② すばやい消火・火の始末
- ③ 窓や戸を開け出口の確保
- ④ 火が出たらみんなで消火
- ⑤ あわてて外へ飛び出さない
- ⑥ 狭い路地、塀ぎわ、がけ、川べりに近寄らない
- ⑦ 山崩れ、がけ崩れに注意
- ⑧ 避難は徒歩で、荷物は背負って最小限
- ⑨ 隣近所協力しあって助けあい
- ⑩ 正しい情報、確かな行動

